

住吉仙也さんお別れの会

日時：12月3日（木）18:00～

場所：梅田 大東洋

阪大山岳会出席者

大野義照会長、丸山庄司ご夫妻、石浜高明、石原敏雄、打出英樹、大川和秋、大宅幸夫、木村裕一、黒岩芳夫、黒田治朗、甲田吉彦、大工原恭、高田邦雄、田中喜樹、豊坂昭弘、廣瀬貞雄、三澤日出夫、山田靖則（50音順）、19名

お別れ会の様子



JAC 重廣恒夫氏の司会で開会



発起人代表 大野会長挨拶



田中喜樹氏の偲ぶ言葉



参加者スナップ 1



参加者スナップ 2

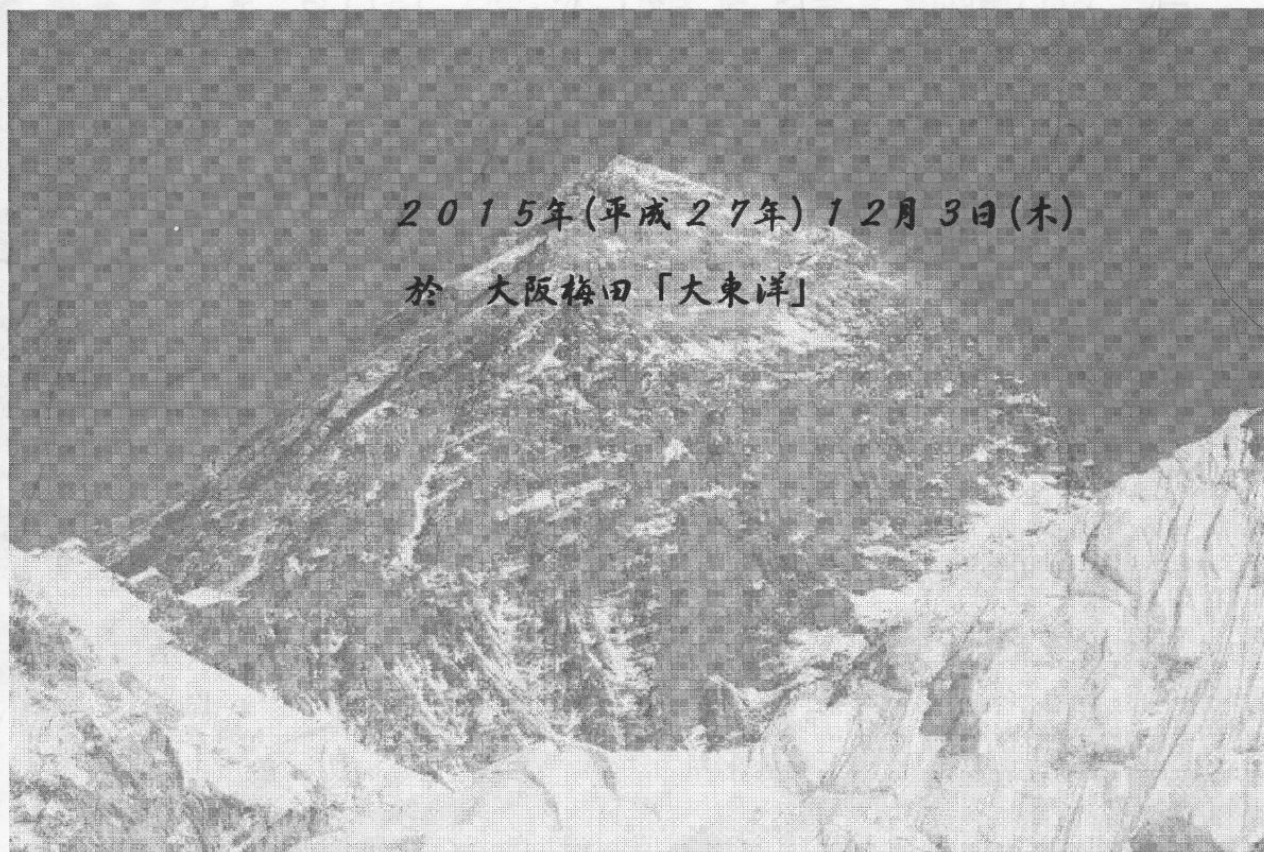
当日配布された資料は以降の通りです。

住吉仙也 お別れ会

『やるだけやった』

2015年(平成27年)12月3日(木)

於 大阪梅田「大東洋」



Dr. 住吉仙也 山海行歴備忘録

西暦	和暦	出生	
1926	大15	出生	
1945	昭20	終戦	
1946	S21	モロトリアム(預金封鎖令)	この前に米5俵購入 1俵 60円
1947	S22	第六高等学校卒業	その後インフレにて大儲け 1俵600円~1,000円
		浪人3年、信州にて登山生活	
1950	S25	大阪大学医学部入学	
		大阪大学医学部卒業(28歳)	→ 国家試験合格
1954	S29	(12月【船】韓国~バンコク~シンガポール~ラングーン(モールメン)	
'55	S30	~3月) (朝鮮戦争 国連軍タイ部隊凱旋) (黄変米 燻蒸)	
'56	S31	【船】クェート~スエズ~リバプール、フィリピン(猿集め)	
'57	S32	【船】アメリカ~パナマ~ニューヨーク~フィラデルフィア、	
'58	S33	バンクーバー、シアトル、サンフランシスコ、ロスアングルス	
'59	S34	Himaluchuli (7,893m)	(春 3~6月)
'60	S35		
'61	S36	P-29 (7,871m)	(3~6月) 第1次偵察隊入域地探査
'62	S37		
'63	S38		
'64	S39		
'65	S40		
'66	S41	奄美大島(夏)	} NHK自然のアルバム
'67	S42	知床半島(冬)	
'68	S43	小笠原諸島 返還 (6~7月) ... 撮影(NHK) (6/26)返還 放映	} ナパール 登山禁止期間
'69	S44	P-29 (7,871m) (秋) P-29 阪大(渡辺-死亡)初登頂	
'70	S45	Everest (8,848m) (春:植村直巳)	
'71	S46		
'72	S47	韓国学会、 沖縄 返還 (春) ... 撮影(NHK)、(5/15)返還 放映	
'73	S48	Everest (8,848m) (秋:加藤保男)	
'74	S49		(7月) 小豆島 水害(死者29、重症41)
'75	S50	ミクロネシア諸島 (9~12月) ヨット	
'76	S51	Jannu (7,710m) (春) 山学同志会 (9月) 小豆島 水害(死者6、重症54)	
'77	S52	インドネシア (12月~ カリマンタン、	
'78	S53	~1月) シンタン	
'79	S54		
'80	S55	Annapurna (8,091m) (12月) Fluted-P	
'81	S56	天山、ポゴダ峰 (7~8月)	
'82	S57		
'83	S58	NangaParbat (8,126m) (4~7月) 徒歩溪流会 パキスタン	
'84	S59	ネパール (11月)	
'85	S60	インド (4~5月) シッキム	
'86	S61	{ バンコック(7回)、シンガポール(1回)、韓国(4回)、	} 同 (嘱託)
'87	S61	{ ネパール(5回)、台湾(3回)、ザンビア・シンバブエ(1回)、	
'92	H04	マレーシア(1回)	
'93	H05	Everest (8,848m) 群馬隊(八木原隊長)	
'94	H06	(9~10月) チョーオユー(8,188m)、ラサ~(11~1月) エベレスト(厳冬期 南西壁)	
'95	H07	(1/17) 阪神淡路大震災	ハワイ(6月)、韓国釜山(12月)
'96	H08	韓国 (5月、および、11月)	ホームレス('95/1~'97/3)
'97	H09	ネパール(9月)、オーストラリア(11月)	「天王寺 都都ル・四国禅寺厳冬修行」
'98	H10	中国「白頭山」(5月)、韓国(6月)、ネパール「カンチヒマール、北西ネパール」(8~11月)	
'99	H11	ネパール(3~4月)、ネパール「ドルポ地域」(5~8月)	
2000	H12	韓国(1月)、カナダ「イロ-ナイフ-オ-見物」(2月)、ネパール「KTM」(11月)	
'01	H13	ハワイ(2月) ディベンドラ氏 来日: 京都ホテル (9/12)米 同時多発テロ	
'02	H14	満州[中国](2月)、マレーシア/サバ州(10月)	
'03	H15	マレーシア/サバ州(11月)	
'04	H16	カナダ/バンフ・ケローナ(加藤)~バンクーバー(田近) (3月)、香港マカオ(5月)	以上



謹啓 本日は ご多用の中 お運び下さいまして ありがとうございます

故 亡父 仙也 におきましては 去る十月五日(月)午前五時二五分に永眠致しました

仙也は 予てより 療養に努めておりましたが 故人の遺志により 各位へのご連絡を差し控えておりましたこと 茲にお詫び申し上げます

生前 自宅における仙也の暮らしぶりは ほぼ毎日一〜二時間の散歩を欠かさず 庭木の手入れにも勤しみ また食欲も旺盛で 私の顔を見ると 何か旨いモンを買って来いと 言い付けておりました

ところが此の七月末の猛暑により酷い熱中症に罹った模様で 微熱と脱水ならびに嘔吐を伴う拒食の症状に陥りました

お医者様からは 忽ちの入院加療が強く勧められておりましたが 医者でもあった仙也は 頑なに在宅治療を希望し 訪問看護による在宅点滴(二百ml/日)を受けるに留まっており その間 口にするものは 大粒の葡萄五粒程度/日で さらに 横になっての生活が続いたため 筋力も一気に衰え 歩行すら覚束なくなっておりました

結果 回復は儘ならず 八月二五日(火)に市内上ヶ原病院へ収容されるに至りました

病院では 炎症反応もみられたことから抗生剤の投与と 点滴も七五〇ml/日に増え手厚い治療と看護が施されましたが 拒食症状だけは改善がみられず 口にするものは相変わらず葡萄のみでした

病床にあっては 筋力のみならず体幹までもが衰えはじめ 次第に上半身を自力で起こすことすら難しくなる一方 足下からは栄養不足によるムクミも生じていましたが 意識や思考に於ける衰えなどは全くありませんでした

入院中 血中酸素濃度の著しい低下がみられた折には マスクによる酸素吸入が措置されましたが 仙也はこれを嫌い 自ら外しては 看護師さんを困らせる始末でした (健常時九六〜九八%であるべきが 八〇%を下回ったこともありました)

九月末頃からは 病室を訪れても眠っていることが多くなりましたが 目を開ければ オウ! と反応を示し看護師さんによれば 省エネモードに入っておられる とのことでした

入院来 訪問つど 痛みやしんどさを尋ねましても 手の平を振りながら 乾ききった声ではありましたが 快適や とか 気持ちええ と申しておりました

月が変わった十月二日(金)からは 昏睡状態に陥り 血中酸素濃度は六〇%台にまで低下し 息づかいも大きくなり さすがにこの時にはおとなしく酸素マスクを装着してましたが 恐らくは 既に外す力も意識も無くなっていったようで 声をかけれど 体を揺すれど 一切反応を示さず 五日(月)未明 まさに眠るように枯れ入るように 旅立ってまいりました

仙也の亡骸は 翌六日(火)市内満池谷斎場にて荼毘に付し 同月二十一日(水)九州 筑後吉井にある里の菩提寺「浄満寺」にて弔い 法名 浄岳院釋仙道居士 を授かりました

いずれ時機が参りましたら 両親の眠る墓処にて休ませる予定にございます

以上 本来は適宜お知らせすべきところ 遅れ馳せにはございますが 謹んで茲にご報告申し上げます

末筆および書中にて甚だ失礼にはございますが 今般 各位から仙也に賜りました ご弔意ならびに 加療中のお見舞いとご激励 また 生前の厚いご交誼に 心より篤く 御礼申し上げます 誠にありがとうございます

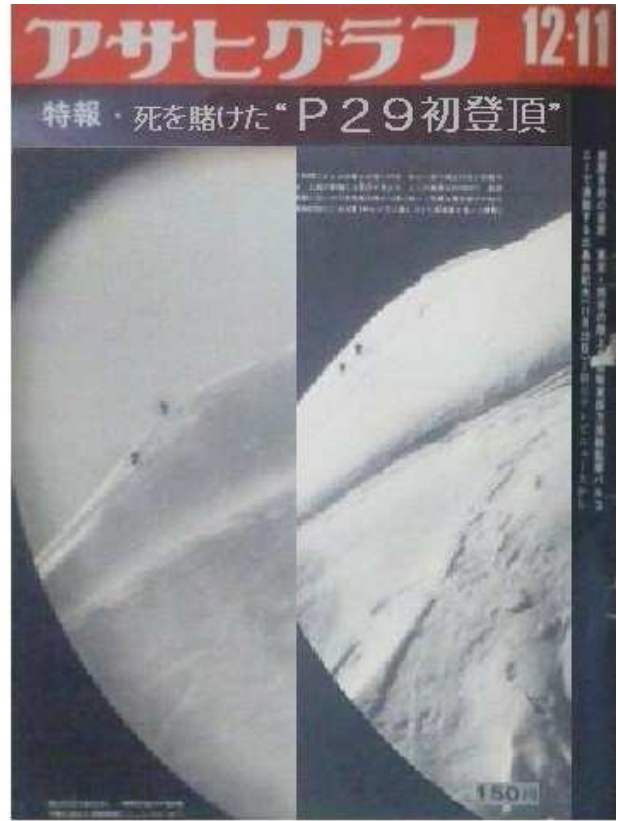
謹白

平成二七年十二月

住吉 誠一郎

1970.12.11付け アサヒグラフ

三島由紀夫の割腹がなければ、この様になっていた？。



これ(↑)無かりせば、*こんな(↑)表紙だったはず!?*

